



新潟県

NEW

県立病院ニュース

～病院に関係する全ての人から信頼される病院を目指して～

第155号 令和3年6月 病院局発行

令和2年度の病院事業会計決算は 3.4億円の黒字となりました

- ▶ 令和3年5月28日に令和2年度決算概要を発表し、**純損益は平成27年度以来の黒字**となりました。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う受診控え、患者受入制限等の影響で、医業収益は大幅に減少しましたが、国からの新型コロナウイルス関係補助金の受入や職員給与の臨時削減等による収支改善で、前年度決算から大幅に改善しました。
- ▶ 今回の決算結果に基づき将来収支を試算すると、経営改善に関する緊急的な取組などにより、前々年度決算時点で令和2年度に見込まれていた**内部留保資金の枯渇は、令和6年度まで先送り**となりました。
- ▶ **ただし、内部留保資金不足の見込みが解消されたわけではなく、新型コロナウイルス感染症収束後の患者数の回復が不透明**であるため、**引き続き危機感を持った経営改善の取組が必要**です。

収益的収支(税抜)

(単位:億円、%)

	R2決算	R1決算	増減額 (増減率)
医業収益	562.0	594.4	▲ 32.4 (▲5.5)
診療収益	552.0	582.6	▲ 30.6 (▲5.3)
その他医業収益	10.0	11.8	▲ 1.8 (▲15.3)
医業費用	706.0	725.5	▲ 19.5 (▲2.7)
給与費	371.7	380.4	▲ 8.7 (▲2.3)
材料費	191.2	201.0	▲ 9.8 (▲4.9)
経費	95.0	94.6	0.4 (0.4)
医業損益	▲143.9	▲131.1	▲12.8
(補助金)	37.2	1.0	36.2 (3,620.0)
(一般会計繰入金)	101.8	111.1	▲ 9.3 (▲8.4)
医業外損益	146.2	120.9	25.3
経常損益	2.3	▲10.2	12.5
純損益	3.4	▲13.4	16.8

新型コロナ影響の患者減により、医業収益は減少

患者減に連動した材料費の減、給与費の減により医業費用は減少

新型コロナ関係補助金の受入により増加

約3.4億円の黒字

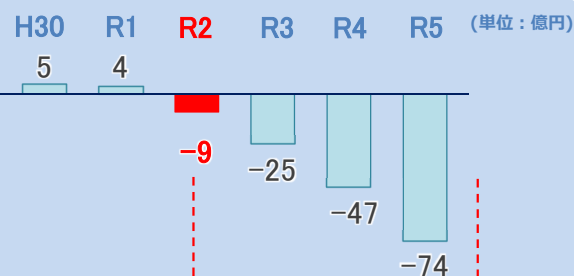
※主な収益費用を抜粋している。各数値は項目ごとに表示単位未満を四捨五入しているため、合計等と一致しない場合がある。

緊急的な取組による内部留保資金枯渇時期の先送り

平成30年度
決算

令和2年度以降、内部留保資金が枯渇し、
資金不足に陥る事態が想定された*

※一定の条件で病院事業会計の収支を試算



令和元年度
～

病院局では、緊急的な取組*を策定・実施

- ① 収支改善必要額 ▶ 74億円
- ② 取組期間 ▶ R元～5年度 (5年間)

※『新潟県病院事業の経営改善に関する緊急的な取組』

枯渇時期の
先送り

令和2年度
決算

①内部留保資金枯渇の見込みが令和6年度
以降に

②新型コロナウイルス感染症収束後の患者
数回復が不透明。

→引き続き、危機感を持った取組が必要



～県病ニュースー口メモ～

収益的収支

収益 (診療収益、一般会計繰入金等)	赤字
費用 (給与、材料費等)	
	減価償却費等

現金収支黒字部
分を内部に貯留

現金収支では黒字

内部留保資金

赤字部分を内部
留保資金で補てん

資本的収支

収入 (借入金、一般会計繰入金等)	赤字
支出 (器械購入、建物改築・改修、借入金返済等)	

「内部留保資金」とは？

建物・器械の減価償却費など、
現金支出がない費用等の計上により
企業内部に留保される資金のこと

これが医療器械購入、建物
改築、設備改修の財源になる

内部留保資金が不足すると？

- ・老朽化した医療器械や建物設備の
更新ができなくなる
 - ・予算編成もできなくなる
- 病院の運営はストップ

⇒ 赤字が大きくなると内部留保資金もマイナスとなり、経営の持続は困難